

平成29年度

施政方針

平成29年1月26日

小金井市長 **西岡真一郎**

目 次

1 はじめに	1
2 平成29年度予算の概要と市政運営の基本理念	2
3 市民と一緒に未来をつくる基本政策	4
4 むすび	10

1 はじめに

平成29年第1回市議会定例会の開会に当たり、平成29年度の市政運営方針につきまして、所信を申し述べ、市民の皆様及び市議会議員各位の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

はじめに、可燃ごみの処理について御礼を申し上げます。市政の最優先課題である可燃ごみの処理につきましては、これまで築き上げてきた各団体との信頼関係を基礎として取り組んでまいりました。

平成27年7月に日野市、国分寺市と共に新可燃ごみ処理施設の設置及び運営等を共同して行うことを目的として設立した浅川清流環境組合では、新施設の設計・建設・運営を一括して行う事業者を決定し、現在、平成32年度の本格稼働を目指して着実に事業を進めております。本市としましては、与えられた責任を誠実に果たすべく全力を尽くしてまいる所存です。新施設建設予定地である日野市クリーンセンター施設周辺にお住まいの皆様を始めとした日野市民の皆様及び関係者の皆様へ深く感謝を申し上げます。

また、この間、長年にわたり、本市の可燃ごみ処理の御支援に対しまして、御理解と御協力をいただいている多摩地域の各団体や東京都など、全ての施設周辺にお住まいの皆様及び関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、新施設が稼働するまでの間、引き続き、本市から発生する可燃ごみの全量の御支援をいただけるよう全力で取り組んでまいります。

あわせて、廃棄物の最終処分場の運営について、多大なる御理解と御協力をいただいている日の出町の皆様に心より感謝を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、御支援をいただいている施設周辺にお住まいの皆様及び関係者の皆様の御負担を少しでも軽減するため、引き続き、ごみの減量及び資源化の推進に取り組んでいただくようお願いいたします。

私は、一昨年の12月、市民の皆様から御信任をいただき小金井市長に就任して以降、将来の小金井市にとって最良の選択とは何なのかということを常に考え、行動してまいりました。市政の舵取り役として、その責任の重さを痛感しながらも、庁舎問題の解決に向けた一步を踏み出すなど、細き流れもやがて大河となることを信じ、確かな歩みを進めた1年であったと考えております。今後も、本市が乗り越えなければならない課題の一つ一つに真摯に向き合い、第4次基本構想の将来像である「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ 小金井市」の実現に向け、全身全霊をかけて取り組む決意であります。

また、私が市民の皆様とお約束した「誇りの持てる小金井」、「住み続けたいと願われる小金井」、「市民力が結集された小金井」の実現を目指すという思いは、今なお変わるものではございません。「市民一人ひとりが大切にされ、真の幸せを実感できるまち小金井」を創り上げるため、この先、多くの困難があろうとも「意志あるところに道は開ける」と信じ、明るい未来に向けて力強く歩んでまいります。

2 平成29年度予算の概要と市政運営の基本理念

平成29年度予算の概要及び市政運営の基本理念について、申し上げます。

平成29年度予算編成は、国の経済財政の現状と地方財政の動向、本市の財政状況を踏まえ、「第4次基本構想・後期基本計画」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「未来をひらく小金井市改革」を推進し、若年層や子育て世代の定住を図ることで生産年齢人口、将来を担う年少人口を増加させ、市民力が結集された「選ばれるまち」を目指すための予算を編成しました。

また、第4次基本構想・後期基本計画の財政的裏付けとなります中期財政計画、直近の状況や変動要因等を踏まえた実施計画を策定し、計画的な予算編成を行ってまいりました。

厳しい財政状況であるとの認識の下、財源の確保及び経費の削減に努め、全ての事業において最小の経費で最大の効果を得られるよう、あらゆる視点で検討を行い、国・東京都の動向に注視し、最新の情報を効果的に活用するとともに、市議会の審議結果や監査委員の審査意見、また、市民の皆様への行政に対する御意見を真摯に受け止め、反映するよう努めてまいりました。その結果、平成29年度予算は一般会計399億8,200万円、前年度対比2億2,200万円、0.6%の減、4つの特別会計を合わせた全会計では642億7,080万2千円で、前年度対比1億5,577万4千円、0.2%の減となりました。

詳しくは、本定例会に御提案申し上げております各会計別予算案の中で御説明申し上げます。

続いて、私が市政運営に臨む4つの基本理念についてであります。「市民と行政が共有するグランドデザインづくり」の取組につきましては、「市民と市長の懇談会」、若者による自主講座「ミライカイギ」などに出席する中で、激励やお叱りなどを含めて市民の皆様から様々な御意見を賜りました。その際、多くの市民の皆様が市政に対し高い関心をお持ちいただいていることに感謝申し上げますとともに、「市民力」の高さに感銘を受けたところであります。これからも幅広く対話を重ね、多様な市民参加の手

段を通じて市民の皆様との情報共有を進め、併せて市民と行政との協働の実現を目指し、グランドデザインの具現化に向けた「対話」を押し進めてまいります。

「市民サービスと住民福祉を向上させるための真の行財政改革」の取組につきましては、これまで本市が取り組んできた行財政改革大綱の成果を踏まえ、今後の改革の指針となる「行財政改革プラン2020」に基づき、新たな一步を踏み出します。市役所が「市内最大のサービス事業所」となるために大切な1年であり、全庁一丸となって行財政改革を強力に進めてまいります。

「公共施設全体の将来ビジョンの策定と庁舎問題の解決」の取組につきましては、本年3月に「公共施設等総合管理計画」の策定を予定しております。全国的にも大きな課題である公共施設等の老朽化対策にしっかり向き合い、道路、橋りょう、下水道といったインフラを含め、本市の実情に即した基本方針をお示ししてまいります。

また、本市の長年の課題であるとともに私の最大の目標であり、公約でもある「庁舎問題の解決」につきましては、積極的に庁舎建設基金へ積立てを行うなど、着実な準備を進めてきております。昨年10月、市議会から御指摘いただいた課題を踏まえ、ゼロベースで見直すことを決断して以降、新庁舎は庁舎建設予定地に整備すること、新庁舎竣工の暁には第二庁舎は所有者へ返還することを土台として、内部での検討を重ねてまいりました。先の定例会におきましては、新庁舎及び新たな福祉サービスの拠点となる（仮称）新福祉会館の竣工時期の目標を平成33年度とする考えを市議会に御報告申し上げ、既に庁舎建設予定地における測量や地歴調査の実施などを進めているところです。本定例会に御提案申し上げます平成29年度予算案には、これらに関係する事業も計上してございますので、市民の皆様及び市議会議員各位の御理解をいただきながら一日も早く課題の解決を図るため、全力で取り組んでまいります。

「駅周辺のまちづくりの推進」に係る取組につきましては、権利変換計画の認可を経て、いよいよ解体工事が始まることとなる武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業の円滑な事業進捗を目指すとともに、同駅北口駅前地区市街地再開発準備組合への必要な支援を行うなど、引き続き駅周辺のまちづくりを進めてまいります。東小金井駅北口土地区画整理事業につきましては、事業施行前に比べ約6倍の広さとなる駅前ロータリーが、バス停の上屋などを除き、間もなく完成する予定です。引き続き東部地区の中心としての発展を目指し、都市基盤整備の推進を図ってまいります。

脈々と受け継がれてきたまちづくりのバトンを強く握り、これからも市民の皆様の利益と利便性を常に考え、福祉、環境、防災、安全の視点も大切にしながらにぎわいを創出してまいりたいと思います。

3 市民と一緒に未来をつくる基本政策

それでは、私が掲げた7つの基本政策に沿いまして、平成29年度に予定する取組等について申し上げます。

はじめに、「子育て環境日本一の小金井」についてであります。

我が国の人口構造の変化は、本市も例外とは言えず、働く世代の人口減少がより一層顕著となる社会の到来は、市政の大きな課題であります。これらの課題に正面から向き合い、持続可能な小金井市を目指すためには、待機児童解消対策を始め、学童保育の充実、障がいのあるお子さんへの支援など、子どもたちが元気に育つ環境の整備を進め、子育て環境日本一に向けたまちづくりを進める必要があります。

私が考える子育て環境とは、子どもを産み、育て、子育てに携わる全ての方々を支援するまち全体の総合力であります。平成29年度からは、これまでの取組を発展させ、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行う体制の整備を図ります。その一環として、全ての妊婦を対象に保健師等による面接相談の機会を設け、関係機関と連携しながら安心して出産を迎えられる体制の充実を進めてまいります。

また、待機児童の解消を進めるため、本年4月には市内初となる幼保連携型認定こども園が開設されます。一つの施設内で幼稚園機能又は保育園機能を希望する方々が共に利用することが可能となり、利用者の方々の満足度が更に向上することを期待しております。

さらに、新たな認可保育所の開設を行うほか、認可保育所と認可外保育所の保護者負担の格差を埋めるべく保育室等の保護者助成金及び私立幼稚園等に在席する園児の保護者の負担を軽減すべく私立幼稚園等園児保護者補助金の拡充を図ります。このほかにも、国や東京都からの補助制度について積極的な活用を行い、市内で保育や幼児教育に携わる多くの方々の御理解、御協力をいただきながら子育て環境の充実を進めてまいります。

学童保育事業につきましては、これまでの全入措置を堅持しつつ、平成30年4月からのみなみ、さわらび学童保育所業務の民間委託に向け、関係者の皆様との信頼関係の構築を図りながら丁寧な準備を進めてまいります。

学校教育につきましては、「小金井らしさの醸成」という視点の下、将来幅広い分野で活躍できる能力を身に付け、目まぐるしく変化する社会にも対応できる「生きる力」を育むことが肝要であります。このためには、未来を担う子どもたちの可能性を伸ばす環境を整備することが重要だと考えております。本市においては、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、ICT機器の整備を計画的に進めるなど、特色ある学校教育の一

層の充実を図ってまいります。

また、学校における学習支援、特別支援学級の介助補助など教育現場において幅広く御活躍いただいているボランティアの方々の御協力をいただきながら、子どもたち一人一人のニーズに応じたきめ細かい支援を行い、教育の質の向上を強く進めてまいります。これまでに培った本市の教育の歴史と伝統を基礎として、時代の要請に応える質的転換の視点を大切にしながら、「恩師に会える学校」として更なる発展を期待したいと思います。

このほか、学校施設においては非構造部材の耐震化を進め、震災時に事故が起こりやすい屋内運動場等の天井等落下防止対策を加えた工事や給食室改修工事を実施するなど、学習環境の整備を引き続き実施いたします。

未来を担う子どもたちが元気で、笑顔があふれるまち、子育て環境日本一に向け、全力で取り組んでまいります。

続いて、「健‘幸’長寿・ささえ愛の小金井」についてであります。

本市においても、少子高齢社会の進展に伴い、65歳以上の年齢層は増加傾向にあります。高齢者の皆様が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることのできる地域社会の実現は、市民共通の願いであります。平成29年度においても高齢者の皆様の社会参加の推進を図るとともに民間事業者とも連携しながら高齢者の見守り体制の充実に努め、ボランティアやサブスタッフ制度の更なる活用等により、地域における支え合い体制を引き続き推進してまいります。また、誰にも起こり得る身近な脳の病気である認知症への速やかな対応及び予防の啓発を図るため、「認知症ケアパス」を作成するなど、地域包括ケアシステム構築の具体化を加速させるとともに、医師会、歯科医師会、薬剤師会など関係団体と連携しながら健康長寿のまちづくりに向けた取組を推進してまいります。

次に、障がい者福祉につきましては、昨年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づき、地域自立支援協議会や関係団体と協議・検討を重ねながら小金井らしい「障害者差別解消条例」の制定を行い、不当な差別の取扱い、合理的配慮等について理解促進を図り、障がいの有無によって差別されることのない環境づくりを進めてまいります。そのための啓発活動の一環として、現在も周囲に対して自己の障がいへの理解や支援を求めるための「ヘルプカード」を配布しているところですが、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々を積極的に支援するため、新たに「ヘルプマーク」を作成し、C o C oバス車内においても

このマークを活用した優先席を設けるなど、障がい特性の理解促進に努めてまいりたいと考えております。

生活困窮者に対する支援につきましては、従前から行っている自立相談支援事業の実施などに加え、新たに家計相談支援事業、子どもに対する学習支援事業を実施し、生活保護に至る前の段階の自立支援策をより一層強化してまいります。

以上、申し上げてまいりましたとおり、福祉に関する各種の施策につきましては、様々な制度の枠組みを超え、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、全ての市民の皆様が住み慣れた地域で互いに支え合い、助け合いながら、安全・安心な生活を送ることができる地域づくりを目指すことが肝要であります。このため、第4次基本構想・後期基本計画の理念に基づき、「保健福祉総合計画」の改定を行い、一人一人が安心して暮らせるまちづくりの実現を図ってまいります。

続いて、「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」についてであります。

私は、本市にはたくさんの魅力があふれているものと考えております。全ての市民の皆様が主役となり、新たな魅力を発見できるよう「あるものさがし」の視点を大切にし、シティプロモーションの観点からも、市内外に力強いメッセージを発信していきける取組を推進してまいります。このため、商工会や観光まちおこし協会と連携し、本市が持つ観光資源をいかした事業を展開するなど、交流人口増加に向けた取組についても力を注ぎ、市内に新たなにぎわいを創出してまいります。

昨年12月、独自の優れた技術や新しいビジネスモデルで地域経済に貢献した中小企業などを表彰する第14回多摩ブルー・グリーン賞において、市内企業が経営部門（グリーン賞）の最優秀賞を受賞したことに加え、東小金井事業創造センター（KOTO）から巣立った企業が技術・製品部門（ブルー賞）の奨励賞として表彰され、今後の活躍が期待されています。引き続き、卒所者が市内に定着できる支援を図るなど、市内の産業基盤整備や期待される成長産業の育成等を推進してまいりたいと思います。

また、「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」を実現するためには、駅周辺を中心としたまちづくりを進めるとともに、市民生活を根幹から支えるライフラインを整備することは非常に重要だと考えます。大規模災害が発生した場合に備え、特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震診断は全て完了しているところですが、所有者の方々に対し、耐震補強設計や耐震改修などを進めていただくよう、安全に関する啓発及び知識の普及を進めてまいります。

他方、市内から発生する廃棄物の処理につきましては、重要な都市インフラであるという認識の下、昨年から資源循環型社会の形成に資するため、「清掃関連施設整備基本計画」の策定を進めております。不燃ごみ、粗大ごみ、資源物の処理について、中間処理場の老朽化や暫定稼働している空き缶・古紙等処理場などの既存施設の整理及び二枚橋焼却場跡地の活用等を含む再配置につきましては、これまでと同様に地元の方々への感謝を忘れず、慎重かつ丁寧に協議を進め、安定的な適正処理の維持に努めてまいります。

なお、本年4月からごみの収集日及び枝木・雑草類・落ち葉の回収方法の変更を予定しております。説明会等を通じて市民の皆様にご理解、御協力をいただき、円滑な移行が可能となるよう入念な準備を行ってまいります。

さらに、市が管理する街路灯のうち、LED化されていない約7,000灯について、ESCO事業により一斉にLED化を行う事業費を、債務負担行為として平成29年度予算に計上しております。これにより、エネルギー消費量の削減、夜間の交通安全の確保、長期的な財政負担の軽減等、多角的な効果が期待できるものと考えておりますので、滞りなく事業が進捗できるよう所要の準備を進めてまいります。

続いて、「地域がいのちを守るまち小金井」についてであります。

地域の防災リーダーとして、市民の命を守るために昼夜を問わず幅広く活動をしていただいている消防団員の方々とその御家族の皆様へ、深く感謝を申し上げます。消防団活動は地域防災の要であり、日々の皆様の御努力があるからこそ、安全・安心のまちづくりを進めることが可能となります。本市では、昨年より、消防団員の加入促進等を目的とし、大学生等を対象とした「学生消防団活動認証制度」を開始したところです。今後も大学生等の若い世代がいきいきと活躍できるよう、必要な支援を行ってまいります。

一方、大規模災害から市民の皆様生命と財産を守るためには、これまで以上に市全体の防災力の向上が求められます。自主防災組織につきましては、新たな世帯の加入を目指し、結成要件の緩和を行うよう準備を進めております。引き続き、消防署を始め、各防災機関との連携強化を図りながら防災力の向上に努めてまいります。

昨年11月、岩手県久慈市との「災害時相互応援に関する協定」の締結により、「地域防災計画」に基づく東京都外自治体との「絆」は5つとなりました。このほかにも、民間団体との災害協定の締結や、「避難行動要支援者」に対する見守り体制の確立を図るなど、様々な取組を進めてまいりましたので、引き続き、自助・共助・公助の精神

に基づき、災害に強いまちづくりの実現を目指してまいります。

他方、市内の犯罪発生件数は減少傾向にあるものの、残念なことに侵入窃盗や自転車盗といった犯罪が後を絶たない状況にあり、より一層の防犯力向上が求められています。市民同士が防犯を意識して連携する地域コミュニティは、防犯活動の基本であり、「こきんちゃんあいさつ運動」を通じて地域の皆様が互いに声をかけ合うことにより、犯罪の発生を未然に防止する地域の力が大切であります。引き続き警察署と連携しながら、安全・安心のまちづくりを粘り強く進めてまいります。

続いて、「湧き水と緑・桜を守るまち小金井」についてであります。

本市の大きな魅力の一つは、みどりと都市が高い次元で調和していることではないでしょうか。私が子どもの頃、遊び場として日が暮れるまで遊んだ野川やくじら山は当時と変わらず、市民の皆様に安らぎを与え続けています。長きにわたり先人たちが大切にしてきた、本市の誇るべき特長は次の世代に引き継いでいかなければなりません。

平成29年度においては、地域が誇る文化的資産である玉川上水堤の緑道及びヤマザクラ並木の整備方針について協議を重ね、市民団体及び東京都と協働してヤマザクラの補植を行うなど、歴史遺産の再生を促進してまいります。このほか、市民の憩いの場であり、防災の拠点でもある公園整備を計画的に進め、引き続きみどりのネットワークを形成してまいります。

また、近年、閉園や休園による減少が顕著な市民農園については、使用料の改定を行うことに加え、土地所有者の御協力を得ながら、新たに（仮称）ぬくいきた市民農園を本年4月に開園いたします。このほか、都市農地の保全に資するため、学校給食における地場産野菜の提供、ふれあい農業の充実、食育を通じた支援などを行ってまいります。

続いて、「スポーツ・文化都市小金井」についてであります。

昨年開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会では、本市にゆかりのある選手を含めた日本選手団が、全国に夢と感動を与えてくれました。2020年に開催される東京大会は、更なる熱気であふれることでしょう。現在、多摩地域の各団体等を巡るフラッグツアーが開催されており、本市では4月の桜まつりに合わせ、セレモニーを実施する予定です。大会後のレガシー創出を見据えながら、平成29年度に策定する「スポーツ推進計画」の理念を実現するとともに、スポーツ

の「力」を信じ、小金井らしい、未来につながる事業を展開し、市民の皆様とともに開催都市の一員として東京大会の成功に向けた機運醸成に努めてまいります。

文化都市の形成に向けては、「教育・文化の振興に関する総合的施策の大綱」を尊重しつつ、「第3次生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習社会の形成による豊かな地域づくりを進めてまいります。さらに、「芸術文化振興計画」の理念に基づき、小金井 宮地楽器ホールやはげの森美術館といった文化拠点を大いに活用し、市民の皆様がそれぞれの感性で芸術文化を楽しむことができる事業を展開するなど、小金井らしい市民文化の「輪」を広げ、魅力あるまちづくりの実現を図ってまいります。

続いて、「新しい自治体経営に挑む小金井」についてであります。

私は、平成29年度を「変革の1年」にしたいと考えております。依然として厳しい財政状況の中で山積する将来課題を解決するためには、もはやスクラップなしではビルドができないことは明らかであります。このような状況にあっても、市民サービスを向上させ、本市を「選ばれるまち」とするためには、最小の経費で最大の効果を得ることを常に念頭に置き、新たな財源を生み出していく知恵と勇気が不可欠であります。

私が市長に就任して以降も、直營業務の見直しや新たな財源確保などに取り組んでまいりました。今後の指針となる「行財政改革プラン2020」では、「いつか誰かがしてくれる」ではなく「今、私たちが必ず実行する」を基本として、市民サービスの向上、行政の質的転換、そして何よりも財政再建を図り、私自身が全ての職員の先頭に立ち、真の行財政改革を断行してまいり所存です。

他方、挑戦し続ける組織を構築するため、職員には、政策形成能力の向上を図るとともに人的ネットワークを広げるなどにより、行政のプロフェッショナルとしてより広い視野を持ってほしいと考えております。このため、職員の人材育成の取組の一つとして、これまでの東京都を始めとした行政機関に加え、新たに民間企業との人事交流を実施するほか、近隣大学からのインターンシップ受入れの強化を進めてまいります。

加えて、男女共同参画社会実現への取組につきましては、今後の自治体経営においても重要な視点であります。平成29年度においては、市役所のリーダーとして私自身がイクボス宣言を行い、市内のワーク・ライフ・バランスに対する理解促進に努め、その効果が広く市内の各事業所へ波及するよう取り組んでまいります。

4 むすび

昨年5月、本市に天皇皇后両陛下がお越しになられ、天皇陛下が終戦直後に5年間過ごされた地を御視察されました。町並みは大きく変わりましたが、当時の風景を多分に残し、みどり豊かな小金井を懐かしく思っていたことと思います。

平成30年10月、市制施行60周年を迎える本市は、昭和33年10月、約4万人ほどだった人口が、今や12万人に達する日も近いものと考えております。

本市は、これまでも厳しい財政状況の中、勇気と決断をもって行財政改革やまちづくりを進めてまいりました。60年という歴史は、困難を乗り越え続けた年月の積み重ねであり、今後は、私たち自身が未来のために種をまき、「選ばれるまち」としての市政を進めていかなければなりません。

平成27年度に行った本市の人口推計では、平成32年以降に生産年齢人口の減少が始まり、歳入の根幹をなす地方税への影響とともに、社会保障関連経費の増加は不可避であると考えます。今後も、本市を取り巻く社会経済情勢は、厳しさを増すことが予想される中、市民の皆様笑顔があふれる「まち」であり続けるために、恐れることなく挑戦を続け、変革を目指す歩みを進めてまいりたいと思います。

先人たちが築き上げた財産を基礎として、既成概念にとらわれることなく、時代の変化に対応しながら、新たな小金井を創造することは、我々に与えられた使命であります。

決して平たんな道のりではありませんが、市民の皆様との対話を通じ、オール小金井の精神で、未来に輝く小金井を創ってまいりましょう。

市民の皆様及び市議会議員各位には、より一層の御理解、御協力をお願いし、本定例会に御提案申し上げます平成29年度予算案を始め、各種案件につきましては、十分御精査の上、御議決いただきますようお願い申し上げます、私の施政方針とさせていただきます。